
パンク・ザ・アイアンハート

(° 。。)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

パンク・ザ・アイアンハート

【ZPDF】

Z2292M

【作者名】

(。 。)

【あらすじ】

Hコトという言葉は本当に地球を救えるのか。

地球温暖化という問題は温室効果ガスを減らそうといつ一歩まで単純化できるのか。

単に分かりやすい「悪」と「目標」をブチ上げただけではないのか。それを「セイブジアース推進委員会」「緑の杜」という二つの組織の謀略と、その渦中で出会った少年と少女を通して考えていく。という意図もあるが、一時間のエンタテイメントとして良いものを創る上での手段に過ぎない。

イントロダクション（前書き）

本作は某高校演劇部に提案し、没となつた
「シナリオ」
です。

小説とは表現方法が異なりますのでご注意ください。

イントロダクション

パンク・ザ・アイアンハート

演出意図

エコという言葉は本当に地球を救えるのか。
地球温暖化という問題は温室効果ガスを減らそうとこう一 点まで単純化できるのか。

単に分かりやすい「悪」と「目標」をブチ上げただけではないのか。
それを「セイブジアース推進委員会」「緑の杜」という二つの組織の謀略と、その渦中で出会った少年と少女を通して考えていく。
という意図もあるが、一時間のエンタテイメントとして良いものを創る上での手段に過ぎない。

セイブジアース推進委員会

温室効果ガス排出量削減を主な目的に掲げた、政府のエコ関連事業を一手に引き受けた組織。電力の再生可能エネルギー化、非環境対応型自動車の使用禁止、エアコン設定温度の28度固定化、簡易包装の義務化、レジ袋完全有料化の他、広報活動として発光ダイオードを使用したイルミネーション、ノー照明デー、「エコの日」を国民の休日にするための運動などを行っている。

作品世界における人々の環境意識は現在以上に高く（エコに批判的な人物は、現在の児童性犯罪者などの扱いを受ける）、これらの事業は概ね好意的に受け止められている。

また事実上の戦闘部隊として温室効果ガス排出監視員を置いているが、このことに対する批判は少ない。

緑の杜

「みどりのもじ」と読む。テロリストと言つても全く問題のない、

極右的環境保護カルト教団。

創立当初は金持ちの道楽的な団体でカルト的な部分も無く、活動は週末のデモ活動とその後のオーガニックカフェでのお茶程度だった。しかし団体の規模が拡大するにつれ、構成員の中へ低所得者層が急増。現総帥が一人の女性を天使として祭り上げ、

「天使が降臨した。文明を棄てよ。天使はいずれ文明を棄てない者を根絶やしにするだろう」

として構成員を統率するようになると一気にカルト教団としての性格が強まった。

現在は「愚民どもの目を開かせ、一人でも多く文明を棄てさせるため」と称して信者に自爆テロを繰り返させている。もつとも彼等が完全に文明を棄てたわけではないが誰もそのことには触れようとしない。

キャラクター

パンク　主人公。　。16歳。「緑の杜」の信者。自爆テロに失敗し、ミンチにエンジンの心臓を移植されて復活する。「人は文明を捨てるべき」という教義を頑なに信じていたが、その考えは徐々に変わっていく。

ミンチ　もう一人の主人公。　。外見年齢20代。「ジヤンクストリート」のまとめ役のような存在。悟つてしまつたようにも単なるモラトリアムにも見える彼女の生き方は、パンクに大きな影響を与える。

齊藤　。25歳。「セイブジアース推進委員会」の戦闘部隊「温室効果ガス排出監視員」の隊長。自分たちの「エコ」に絶対の自信を持っているが、温暖化の知識は新聞の読み囁りの域を出ない。作品世界の世論を代弁するキャラクター。

ガブリエル　。22歳。本名川崎めぐる。「緑の杜」の聖典にあ

る天使。とされる少女。
パンクの想い人。

ブリッツアーソニックMk.2 ロボット。ジャンクストリートの
住民。名前は格好いいがデザインは「モジヤ公」のドンモなどに近
い。喋ることはできず、スケッチブックで意思疎通する。通称「ぶ
そま」

緑の杜総帥 緑の杜を一大カルトに成長させた張本人。聖典（税込
み2100円たちまち重版）を執筆したのも彼である。

総理大臣

温室効果ガス排出監視員（複数名）

ジャンクストリートの人々（複数名）

緑の杜信者（複数名）

緑の杜幹部

アナウンサー

カメラマン

他

？・自爆テロ

波の音が響いている。ここは東京を水没から護る巨大堤防の上。ここに完成した環境サミット会場を視察するために総理大臣（以下総理）がやってきた。総理、ビシッとした歩き方で入場。斎藤と温室効果ガス排出監視員（以下監視員）、総理大臣を護衛して入場。パンク、ナイフを握つてカミ手のすみで息を潜めている。

パンク「（恐怖を抑えつけるように）悪魔の業を棄てぬ者じもよ、
目を開け」

総理「なるほど、どうやら間に合つたようだな」

斎藤「先進12カ国環境サミット。総理、このテのイベントの施設なんて、余裕を持って間に合つ方が珍事と言えます」

パンク「我、この身の犠牲をもつて汝等愚民の目を開かせんとする者なり」

総理「両極の氷床崩壊による海面上昇、東京の海拔マイナス地帯化。東京水没の危機が叫ばれてからもう10年か。この東京ゆめ堤防が余裕を持って完成したことを見たはもつと感謝せねばならないだろう」

パンク「愚かなる者どもよ、文明を棄てよー偉大なる天使ガブリエルは、汝等を審判の後の世界にあっても、寛容に迎えるであろう」

監視員A「いつか、堤防無しで人々が暮らせる地球を取り戻したいですね」

総理「できるだろうとも。そのための君達「セイブジース推進委員会」だろう？」

斎藤「死力をもつて対処しているところです、総理」

パンク 「私は先に逝く。だがとも盟友よ悲しむな。炎と風に破壊された我の身体は、大天使ガブリエルの手 で一足先に審判の後日に運ばれるのだから」

アナウンサー（以下アナ）とカメラマン、入場。総理を見つけて駆け寄つてくる。

アナ 「今総理が出てきました。総理、環境サミット会場の視察を終えたところだと思いますが、いかがだつたでしょうか？」

カメラマン、カメラを回す。

総理 「多くの国に日本の「Hコ」を知らせるのに充分なものと感じています」

パンク、ナイフを一旦しまつて胸の口ケットを開く。

パンク 「め、（別の名前を声に出しかけてやめる）天使様、行つてきます」

パンク、すつと立ち上がる。

パンク 「（力いっぱい）人よー文明を捨てよー我、汝らの目を開かせん！」

カメラマン 「なんだ？！」

アナ 「テロリストよー回して回してー」

場、瞬間にパンクに。だが斎藤だけ冷静。即座にアサルトライフルをセミオート（单発）で発射。パンク、胸から血を吹いて堤防（舞台）から落下する。堤防のコンクリートにぶつかりながら死体

が落ちていく音。

斎藤 「危なかつた」

監視員A 「追つたほうが良いでしょつか」

斎藤 「高層ビルから落ちたようなもんだ、死ななかつたら私は天使の存在を感じるよ。」

（周囲を警戒して）それよりもまだテロリストが居るかもしだい。急いで総理をお連れしよう」「う

斎藤と監視員A、総理を立たせる。全員退場。

OPテーマ。雰囲気に合わないノーテンキなのがイイな。
ブリツツアーソニツクMK・2（以下ぶそま）、入場。中央に正座してキャスト以外のスタッフフロールが書かれたスケッチブックをめくつていく。

OPテーマ終了したらミンチに引っ張つていかれる。二人、退場。

？・パンク誕生

パンクが落ちた先。錆びたバイクやいじりかけの機械が散乱する汚い部屋の中。手術台の上に、胸からマフラー（バイクとかのアレ）が生えたパンクが横たわっている。ミンチとぶそま、パンクを囮んで何やら作業をしている。

ミンチ 「よし、こんなもんかな？」

ぶそま、頷いてパンクにガソリンを飲ませる。ミンチ、パンクの胸元でコックをひねりチョークを引く動作。スターターを引く。が、エンジンがかからない。

ミンチ 「あつれ？おかしーなー」

ミンチ、パンクのエンジンをかけようと四苦八苦。その間にぶそま、足元に部品が一つ落ちているのに気付く。が、それを伝える前にパンクのエンジンがかかる。

ミンチ 「おっしゃ！あたしつたらリューセキね！」

パンク、飛び起きる。

パンク 「鳥だア——！（辺りを見回して）どにだ？」「こは」

ミンチ 「ジャンクストリートよ」

パンク 「ジャンク、セサミじゃなくてか。そつか、俺はテロに失敗して、落ちたのか」

ミンチ 「いやあ君は実に運が良いよ。天才外科医にして工学博士のこのミンチに発見されてなかつたら、今 頃オカカモメの餌だったよ？」

パンク 「あんたは？」

ミンチ 「言つたでしょ？天才外科医にして工学博士のミンチよ。こつちはぶそま」

ぶそま（以降ぶそまの台詞は全てスケッチブックの文字）『正確にはブリツツアーソニックMK・2です』

パンク 「使命を果たし損ねた。（シリアルに）ミンチさん、ここから出る方法を教えてくれ。俺はこんなスマラムでボケつとしている身じゃないんだ」

ミンチ、しばらくパンクの目を睨みつける。が、突然コブラツィストをかけはじめる。

パンク 「イテテテテテテテテテテ！ギブギブギブギブ！」

ミンチ 「審判だかチンパンジーだか知らんけどその前に言つ！」と

が有るでしょお?！」

パンク 「分かつた、分かつた！」

ミンチ 「（歯んで含めるよつ）助けてくれてありがとう、ぐりい言いなさいよ?！」

パンク 「た、助けてくれてありがとう、ゼロコモア!!ミンチさまアー。」

ミンチ、パンクを解放する。

ミンチ 「よくできました、パンク・ザ・アイアンハートさん」

パンク 「パンク?」

ミンチ 「名前よ、あなたの」

パンク 「何だよ、その音速ハリネズミみたいなの」

ミンチ 「パンクが名乗らないからあたしが良い名前を決めてやつたのよ。感激しなさい」

パンク 「誰が」

ミンチ 「じゃあ感謝に負けといたげる」

パンク 「いいから出口を教えてくれ」

ミンチ 「ムリムリ、ここは一重構造の堤防の丁度谷底。ま、諦めてジャンクストリートの一員になつちまつことね」

パンク 「話にならない。俺は自分で出る方法を見つける。止めるなよ」

パンク、退場。ミンチとぶさま、その姿を見送る。

ミンチ 「（楽しそうに）やめといた方が良いと想つけどなア」

（SE）ガラクタをかき分ける音

パンク、ロケットベルトを背負つて出でてくる。

パンク 「よし、なんとか行けそつだ」

ぶそま、焦つて止めに入るが聞いてもらえない。パンク、助走をつけて反対の袖に飛び込む。

パンク 「アーカイキヤーンフフアーラー！」

ジェットエンジンの噴射音が聞こえてくる。だが不意にプスプスと失火。ひゅ～、と落ちて地面に激突するあの音が響く。パンク、よたよたと再入場。

パンク 「俺は、諦めないからな！（力尽きて倒れ込む）」

？・ジャニクストリートの住人達

ガラクタをよけて作られた、ジャニクストリートのメインストリート。ジャニクストリートの住民達（以下住民）がビールケースを椅子にして路上に溜まっている。

住民A 「（新聞を読んでいる）フムフム、またテロがあったのか」
住民B 「また大して興味も無いのに日経なんか読んでインテリぶりやがつて。（住民Aから新聞を取り上げ、別の新聞を持たせる）お前にはサンケースポーツがお似合いだ」

住民A 「（不機嫌そうに）俺には向上心でモンが有るんだよ（日経を取り返す）」

住民C 「（住民Aから日経を取り上げて）しかしこの記事によるとだよ、環境サミット会場は二重になつて、堤防に板を渡してその上に造るわけじゃないか。となると下を覗けばジャニクストリートが丸見えだぞ。イメージ的にいいのか？」

住民B 「なんでも上から見える範囲のジャニクストリートはみんな綺麗にされちまつらしげ。あつちに住んでた連中はツイてね

えよな

住民D 「環境サミット会場で思い出したけど、ミンチさんが捨ててきたあの、会場を丸ごと爆破したって ガキ? まだ生きてんの?」

住民C 「昨日田が覚めたらしげけど、なんか妙なことしてベッドに逆戻りしたとか」

住民A 「ミンチさんの機械いじりの腕は認めるが、生物の扱いに關してはヤブだよ」

住民B 「違ひねえ。前にも一回男を拾つてきたことあつたけど、そいつも「ああ」だしなあ。頭のどっかが イカレちまつたんだろうさ」

住民達、爆笑しながら退場。

? · あの堤防を越えられない

ミンチの家。ミンチが鎧だらけのスクーターをいじっている。パンク、ヘリコプター・パックを背負つて彼女の前を横切つていく。袖に消えた後ローターの音が聞こえてくるが、すぐに落下、地面上に激突する。

ふそま、入場。舞台の隅に立つてスケッチブックをめくる。

ふそま『次の日』

パンク、ピッケルを両手に持つて一人の前を横切る。袖に消えた後、コンクリート壁を登つていく音が聞こえてくるが、すぐに落下、地面に激突する。

ふそま『その次の日』

パンク、今度は風船を腰にくくりつけて一人の前を横切る。袖に消えた後、しばらく無音。やがてがっくりと肩を落として戻っていく。

ぶそま『そのまた次の口』

パンク、今日は便所のスッポンを両手に持つて登場。袖に消えた後、スッポンを吸い付けてコンクリート壁を登つたようだが、すぐに落下、地面に激突する。

ぶそま『そのまた次の口の次の口』

パンク、懲りずにホッピング（わかるかな？）で跳ねながら登場。袖に消えた後、ガラクタに突つ込む派手な音。舞台に向かってホッピングとガラクタがいくつか、飛んでくる。

パンク、ふらふらになつて戻つてきて、ミンチの前で倒れ込む。

ミンチ「（バイクいじりをやめて）よっしゃ完成ー！アレ？あんたまだ居たの？」

パンク「（なげやりに）うるせえ」

ぶそま、スケッチブックのページをパラパラとめくり、適当などころで止める。

ぶそま『×田田（開く場所が適当なので口付も適当になる。）—十日くらいがいいか？』

ぶそま、退場。

早朝。パンク、あぐびを噛み殺しながら入場。いそいそとちやぶ台を引つ張つてきて舞台中央で開き、朝食の用意（寸胴の味噌汁とでつかい炊飯器、たくあん数本分も有ればなお可）を済ませる。それ

からナベをおたまで呑みつつ舞合を回る。

パンク 「朝だぞ！ いい加減起きろー。」

ミンチとふそまと住民達、まだ眠そうにしながら出で、つやぶ台を囲む。

一同 「（眠そうに、でもテカイ声で） いただきまーす」

一同、ガツガツと食う。できるだけ皿を回す。ふそまの食事は電池、パンクの飲み物はガソリンで。

ミンチ 「パンクくーん、お醤油切れたー」

パンク、面倒くさそうに醤油を取つてくれる。

住民D 「味噌汁濃いぞー」

パンク 「あ？ お湯か？」

住民B 「薄い！ 味噌取つてこいー！」

パンク 「動脈硬化で死ぬぞ」

住民C 「梅干しどこだ？」

パンク 「ちょっと待つて」

ミンチ 「パンクくーん、あたしも食べるラー油！」

ぶそま 「（つながつたたくあんを持ち上げて） 使えねえなあ

住民C 「ご飯おかわり」

一同 「（堰を切つたよう） おかわりー・おかわりー。」

以後アドリブ適当に。

パンク、しばらく我慢していたがついにキレる。エンジンがフケ上がる音。奇声を上げてちやぶ台返しじょつとするが他の面々に全力

パンク、息切れ。
で阻止される。

パンク、息切れ。

ぶそま 『きわどかつた』

住民A 「そ樣いや今日の朝刊は？」

ぶそま 『！？』

パンク、怒りが再燃。他の面々が茶碗を持って逃げ出したあと、盛大にちやぶ台返し。糸が切れたように大人しくなる。
やがてパンク、一旦退場。新聞を持って戻ってくるが、ふと目を落とした記事に釘付けになる。その間に住民A、パンクから新聞をかっぱらひ。

住民A 「（新聞を読む） フムフム、またテロか。緑の杜も飽きないなあ」

パンク 「ちよつと出かけてくる」

ミンチ 「晩ご飯までには帰つてきてねー」

パンク 「ここを発つんだよ」

住民C 「（不思議そうに） 最近おまつてきてたの？」

一同、しばらくパンクを見送っていたが、また賑やかに食事を始める。

？・夜の会話

ミンチの家。パンクが夜遅く帰つてくると、ぶそまとミンチは既に寝ている。ミンチはいびき。

パンク、ミンチのそばにあぐらをかく。

パンク 「なあ、ミンチ」

ミンチのいびきが止まる。

パンク 「真剣に聞いてくれ。俺はどうしても、ジャンクストリートを脱出しなきゃならない。本当は有るんだろう?出る方法が。教えてくれ、お願ひだ」

ミンチ、応えない。

パンク 「俺は「緑の杜」の一員だ。ミンチも大体どんな教団かは知ってるだろ?」

「緑の杜」の総本山にはめ(名前を言いかける)じゃない、大天使ガブリエルが居る。彼女がその気になれば、その瞬間に世界は逃れようのない洪水に襲われる。その審判の洪水から逃れるためには、文明を棄てるしかないんだ。今教団は、全力を挙げてそれを訴えてる。そのために、俺の両親も、友達も、死んでるんだ。なのに俺だけがのうのうと生きているわけにはいかない。与えられた使命を全うしたいんだ」

ミンチ 「バツカじやないの? 天使も審判も、教皇氣取りのjeeさんの妄言じやない」

パンク 「かもしれない。いや、きっと、そうだ。でもこのままいけば、ガブリエルが手を下さなくとも海面 上昇で似たような事は起こる。「セイブジアース推進委員会」はそれを起こさないために行動してるけど、あんなんじや生ぬるいんだ。みんなそれを分かってない。文明を棄てるくらいの氣で取り組まないと、地球の温暖化はおさまりやしないんだ」

ミンチ、笑い始める。はじめはクスクス、次いでゲラゲラ。しまい

には大爆笑。皮肉ではなく、腹の底から笑っている。

パンク 「（腹を立てて）笑うな！（ややトーン落ちる）人の行動を否定するのは簡単だ。だけど、あなたは、否定されるだけの事をしてるのか？地球のために何かやつてるのか？」

ミンチ、それでも笑つていたがやがておさまる。

ミンチ 「でも、時間が流れるのを止めようとしている人がいたら、あんたは笑うでしょ？」

パンク 「意味が分からない」

ミンチ、急に起き上がる。至近距離で見つめ合つて、あるいはにらみ合つて二人。

ミンチ 「メンメント・モリ。だから、あたし達は限られた時を生きていいく」

突然ドアをノックする音。ぶそま、飛び起きる。パンクもドアの方を見やる。

斎藤 「（ドアを激しくノックして）温室効果ガス排出監視員だ。ドクター・ミンチ、いや、みつもと三本 音紗！貴様には温室効果ガス排出規制法違反で逮捕状が出ている！」

ミンチ、躊躇いなく立ち上がり、困惑するパンクの頭をわしゃつと撫でる。

ミンチ 「あたしの洋服ダンス、上から二番目」

パンク、うなずいて駆け出す。退場。

ミンチ、ドアノブに手を掛ける。止めに入るぶそま。しかしミンチは田で逃げろと促す。

パンク 「（袖から顔だけ出して） ぶそま！行くぞ！

ぶそま、ためらいつつもパンクの後を追う。退場。

ミンチ、ドアを開ける。向こうから齊藤を先頭に監視員たちがなだれ込んでくる。内監視員BとCはミンチに銃を突きつけ、他は家を荒らし回る。

監視員B 「目標B及びC、見当たりません！」

齊藤 「（冷静に）先に逃がしたか。（ミンチに目を向け、皮肉つて）拾つた命は最後まで責任を取るか。泣けてきますな。ネロとパトラッショが死ぬシーンを見せられた時くらい泣けてくる。

単なる一酸化炭素の排出源に、よくそこまで肩入れできますな」ミンチ 「（しみじみと）りゅーせき、セイブジニアース推進委員会の狂信家の言う事は違いますなア」

齊藤 「（少し不機嫌になる。舌を打つて） 連れて行け」

監視員BとC、ミンチを立たせる。三人、退場。

齊藤 「まだ近くに居るはずだ！目標Bとの捜索に全力を擧げる！」

齊藤と残りの監視員、退場。

？・取り調べ

薄暗い取調べ室。齊藤がミンチを取り調べている。机の上のライトス

タンドはミンチの側を向いている。

斎藤 「（取調室を歩き回りながら）二本音紗。住所不定無職。1
2年前、父三本えんじ円児の影響で当時 まだ規制されていなかつ
たガソリン及びディーゼルエンジン車の整備免許を取得。10年前
温室効果ガス排出 規制法が施行されると同時に失踪、以後現在ま
で行方不明（足を止めてミンチを見る）10年ぶりだな、音 紗
ミンチ 「（あごひじを突いて聞いていた）もう一度とあなたの演
説を聴かなくて済むと思ってたんだけど、 甘かったわ」

監視員D、部屋に入つてくる。

監視員D 「失礼します。隊長、容疑者の所持していた二酸化炭素
排出源のリストが完成しました」

斎藤 「自動二輪25両、エンジン完動のみで18機、さらに非環
境対応型の扇風機が一台にブラウン管テレビ、二層式洗濯機にチ
ーンソー一本。これほどの温室効果ガス排出源を溜め込んでいた
とはな。政府と国民が一致団結して取り組んできた温室効果ガス
排出削減の努力を踏みにじる行為だ。これは全国民が平等に負担
して実現した発電の再生可能エネルギー化を否定する脱税行為であ
り、未来の子供達の命を温暖化の影響で 無くしてしまった殺人行為
でもある。

温室効果ガス排出規制法違反は裁判員裁判になる。今の民意を顧
みれば、死刑判決が出る可能性は極めて高い だろ？。その態度を
改めない場合は特に」

ミンチ、鼻くそをほじりながら斎藤の話を聞き流していたが、斎藤
の話が終わると不意に笑い出す。

斎藤 「何がおかしい」

ミンチ 「ところでカツ丼出ないの?」

斎藤 「お前はいつもそうだ。10年前から何も変わってない。眞剣な人間を笑うだけで、自分は何も話そうとしない」

ミンチ 「(独り言のよひに) あたしはあんたほどお喋りじゃないからね」

ミンチ、言いつつ視線を天井付近の小さな窓にやる。

? . 戦闘計画

ジャンクストリートのメインストリート。住民達、舞台中央に集まつてうなだれてい。パンクとぶそま、入場。パンクはフックショットを抱えている。

パンク 「くそ、こんな良い物有るのに出し惜しみしゃがって」

住民C 「(立ち上がり) ミンチさんは?...」

住民達、口々にミンチのことを尋ねる。アドリブ。

パンク 「(毅然とした態度で) ミンチは、今警察だ」

住民B 「てめえ、よくも自分だけノコノコと...」

住民B、パンクに殴りかかる。が、他の住民とぶそまに取り押さえられる。

住民C 「無茶言つな。相手は温室効果ガス排出監視員だ。銃だつて持つてゐ。俺たちは丸腰なんだぞ。かな うわけない」

住民B 「だけど!」

住民A 「(住民Bに同意して) 社説で読んだことがある。今の世

の中、Hゴジヤないつてことはロココノ犯 罪者と同じくらいの悪なんだつて。ミンチさん、古くてHゴジヤない機械をよく直してたろ？助けなきや死刑 かもしけない

住民C 「仕方ない、か」

住民D 「なんか武器になりそうなものを探してこよつ。こんだけ色々有るんだ、銃の一丁くらい落ちてるだら

パンク 「いや、多分そんなもんは要らない」

住民達、パンクに注目する。

パンク 「俺たちはジャンクストリートの人間だ。玉碎覚悟なんて似合わない。もつと気楽に、したたかに行 こいつぜ。（住民達に円陣を組ませる）いいか、まずはこりだ」

ぶそま『（パンク達の前にスケッチブックを突き出して）聞かせられないよ！』

？・パンク、帰る

「縁の杜」の本部。客席と向き合つように祭壇がそびえ、その中央にベール。中にガブリエルの姿がシルエットになつて見えている。カルト宗教には元となる宗教が有る場合が多いが、縁の杜はそいつたものは無い（日本のアニメで宗教的なモチーフがぞんざいな扱いを受けているあのイメージ）。その前で総帥が熱弁をふるい、縁の杜信者（以下信者）がそれを聴いている。

総帥 「（厳かに）大天使ガブリエルの子りよー」

本当に、よくやつてくれた！文明を棄てさせ、より多くの命を審判の洪水から救うためとはい、家族を、友を、恋人を失う日々に耐えた汝等は、必ずや、審判の後の世界で彼等と再びまみえるであろう！

そう！大天使ガブリエルの、審判がついに始まるのだ！」

「あたりで鼻をする声。感動して泣いている信者も居る。

総帥 「はじめは我等が今立っているこの地、文明の鉄に覆われた地、東京だ！」

そして我等は、そのための力を、既に手に入れている…」

信者A、翼を外した米軍のミサイル「トマホーク」を台車に乗せて押してくる。信者の中からどよめき。

総帥 「我等はこれより、大天使ガブリエルの導きにより、あの忌まわしき「東京ゆめ堤防を破壊する…」

信者達の歓声。

その時、ドアが開け放たれる音。
総帥 「では、最期まで彼の地に残り、大天使の力に火を入れる者を選びたい！」

パンク 「堂々と入場。フックショットは捨て、（バイクの）マフラーを（首に巻く）マフラーで隠している。

パンク 「私にやらせてください、総帥」

総帥 「（驚き、目を剥く）かたな方奈くん」

パンク 「はい。内閣総理大臣殺害に失敗したものの、辛うじて命は取り留めました」

総帥 「（優しい表情を作つて）よく帰つてきた。大天使ガブリエルも、君の意志は汲み取つて下さるだろ う」

パンク 「しかし！（食らいつく）大天使ガブリエルに仰せつかつ

た使命を果たせぬままでは、たとえ大天使 がお赦しになられるとしても私の気が收まりません。どうか、名誉挽回を、審判の先頭を切るという形で、果たさせてはいただけないでしょうか…」

信者達 「賛成！方奈に名誉の先鋒を！」

アドリヴで全員、パンクを絶賛。

総帥 「（折れる） そうか、分かった。ではこの大役を、ここで元気な信心深き青年に託そう！」

場、熱狂する。

緑の杜幹部（以下幹部）「皆の者ー出発の準備だ！」

幹部、総帥と共に退場。幹部に率いられ、信者達、踊るように退場。パンク、彼等の後で退場しかけて、ガブリエルを振り向く。が、すぐ歩き出す。

?・イタズラ

スピード感を出すために背景は片付けないまま。照明を落とす。斎藤、歩いている。それをスポットライトが追つ。掃除のおばちゃん（以下掃除）が斎藤を追いかけてくる

掃除 「斎藤さん、今朝見た？堤防」

斎藤 「堤防？（不思議そうに）いや、見ていないが」

掃除 「なんかね、堤防の上に変な棒が一杯立つてんだって。面白いイタズラする人も居るもんねえ。今日は天気良いから、署からでも見えるんじやない？」

斎藤、遠くを見ようと田を憲らす。その間に掃除、退場。やがて斎藤、愕然とする。

斎藤 「あんなイタズラが有つてたまるか。あいつは、ミサイルじやないか！」

斎藤、全力で退場。

？・クライマックス！

再び堤防の上、環境サミット会場前。大量のミサイルが堤防の峰に埋め込まれている（七人の侍の刀のイメージ）作業をしている信者達。その中央で作業を見守る総帥と幹部とベルの向こうのガブリエル。パンクはトマホークによりかかつて起爆スイッチをおもちゃにしている。

斎藤 「（声だけ）居たア！奴等を取り押さえろ！」

クライマックス用BGM。疾走感の有るヴォーカル曲がイイナ。斎藤、監視員を引き連れて花道から（有れば）舞台の信者たちに突撃していく。

幹部 「感づかれたか」

総帥 「我等には大天使ガブリエルがついてる！迎え撃て！」

監視員たちと信者たち、激突。舞台が飽和するほどの大混乱。さりげなく舞台の中央を開けていく。

パンク、（首に巻く）マフラーを投げ捨て、（バイクの）マフラーを見せつける。

エグゾーストノートが響く。パンク、混乱に乘じて総帥と幹部を殴り飛ばし、ガブリエルのベルを張り倒す。

ガブリエル、驚きで声も出ない。胸元にはパンクのものと同じ口ケツト。

パンク 「めくろー！迎えに来た！」

ガブリエル 「方奈！」

抱きしめ合う二人。

戦っていた信者Cが気付く。

信者C 「天使様が！」

信者のいくらかがパンクに襲いかかる。パンク、ガブリエルを護りながらトマホークの付近を死守する。

住民A 「やつてるじゃねえか！」

住民B 「着替えは済んだか？！突撃イ！」

住民達とぶそま、監視員たちと同じ服を着て花道から突っ込む。

ぶそま 『遅くなつたな！』

更なる大混乱。その住民達、信者と警官隊双方に攻撃しつつパンクの周囲を固めていく。

最後の信者はパンクが倒すこと。

嵐の後、監視員が若干残り、信者が全滅しているように調節する。住民は被害ゼロ。BGM丁度ここで終わるようだ。

齊藤 「（憎悪一色）貴様」

死屍累々の中、齊藤、パンクに銃を向ける。パンクは起爆装置を斎

藤に突きつけている。

齊藤 「一体、何が望みなんだ。何が願いなんだ。お前、緑の杜の信者だろ？ 東京を壊滅させたいんだろ？ なら何故仲間を裏切った。（怒鳴る）理解できないんだよ！ お前のやつてことは何も！」

パンク 「的外れだよ。全然。緑の杜がどうとか、セイブジニアースがどうとか、どうでもいいんだよ。

少しでも冷静になつて、考えてみれば分かるはずだ。もうどうしようもない。見つけ損ねたガンは、直そうつたつて人は死ぬんだ。メント・モリ。人はいつか死ぬ。だから飲み、食い、踊れ。明日に悔いの残らぬよう。だから俺はそうした。緑の杜に取られた大切な人を、取り返すために踊つたんだ。（住民とぶそまを見渡す）そして彼等もそうした。

（一際大きな声で）セイブジニアース推進委員会に要求する。ドクター・ミンチを今すぐ釈放し、この場所に連れてこい。さもなくば、俺は東京を海に沈める！

齊藤、パンクを狙つたまま動かない。

長い間。

その後、齊藤、ゆっくりと銃を降ろす。

齊藤 「私には国民の意思に従う義務がある。一人の女のために、都民全員の命をかけるワケにはいかない。（命令する）ヘリをよこせ。三本音紗を釈放する！」

齊藤、残つた監視員を引き連れて退場。その間に一度立ち止まる。

齊藤 「（パンクに背中を向けたままで）今回は見逃してやる。だが私は、もう一つのメント・モリに殉じるつもりだ。次に会つたとき、お前の心臓がまだ温室効果ガスを出していたら、私は迷わ

ずお前を撃つから な

監視員の一人、突然戻つてくる。

監視員？「いやあ、ホント愛されてるよねえ、アタシー。」
全員 「え？！」

さわやかなBGM、フェイドイン。

監視員、変装を解き、正体＝ミンチを見せる。

ミンチ、パンクとガブリエルに歩み寄る。

ミンチ 「それにしてもカツコ良かつたねえ、「待たせたな！」なんてヒーロー直球ヴァリヴァリ！つてカンジでさ」

パンクとガブリエル、赤面する。

住民B 「（事態が飲み込めていない）じゃあ、俺たちは一体何のために」

ミンチ 「（無視して）さ！ジャンクストリートに帰るわよ！可愛い新入りの歓迎会しなきや」

パンク 「（ちょっと怒つて）何でめぐらまでお前の仲間にされてんだよ！」

以後アドリブ。地球は死にかけていても、日常は続いていく。
BGMの区切りが良いところで終わるよ。こ。
暗転。直ぐにBGMエンディングテーマ。キャスト紹介。

本編（後書き）

「フルメタル生徒会長～地球SOS～」の第三話は7月5日（月）
更新予定です

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2292m/>

パンク・ザ・アイアンハート

2010年10月9日22時40分発行